



第80号

歴史と暮らしの赤れんが博物館



広島市郷土資料館

HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS

松本清張と広島—その点と線—



「清張と広島」コーナー

国民的作家・松本清張と広島は点と線のようにつながっているということを知る人は少ないでしょう。

清張の両親は広島で働いており、清張が乳児の時に写っている写真には広島にあった写真館名が記載されています。清張自身も自伝的小説『半生の記』のなかで、「広島は私に因縁の深い土地だ。父と母はここで一緒になった。」と述べています。また新聞のインタビューでは「生まれたのは広島なの」（平成2年11月12日読売新聞夕刊）と語り、戦後、朝日新聞西部本社（北九州市）に勤めながら箸の仲買をアルバイトにしていた時期には、以前から行きたいと念願していた広島を初めて訪れています。

また昭和51年3月、講演のため広島を訪れたときには、わざわざ車で母親の里である志和町まで出向いており、いつも「広島」という土地を意識していた様子がうかがえます。

（公的な清張の生年月日は明治42年12月21日、現北九州市小倉北区生まれとなっています。）

（2ページに続きます）



ひろしま郷土資料館だより

平成22年度前半（4月～9月）に実施した事業から

特別展「松本清張展～清張文学との新たな邂逅～」 2010.4/22～7/11



土手町にあった俵写真館
(中央高い建物)
手前は京橋川、左に見えるのは
柳橋。(明治時代末から大正時
代初め) [俵写真館提供]

1 生誕時の写真が物語るもの

清張には、誕生したところに写した写真が3枚あります。そのうちの2枚は広島で撮られた写真である可能性が大きいと言われています。

その1枚の写真の台紙には「広島京橋」と印刷してあり、裏には「明治四十二年二月十二日生、同年四月十五日写」と墨書してあります。台紙に記された撮影者の名前は「小早川圭風」と読み、K. Kohayakawaと横文字のサインらしきものがあります。(藤井康栄著『松本清張の残像』文春新書)

この小早川写真館の名前は、全国の商工業者が載っている『大家叢覧』(商工重寶社 大正3年6月20日第4版発行)の安芸国広島市の箇所に見ることができ、確かに広島にあった写真館であることがわかります。

もう1枚の写真の裏にも「明治四十二年二月十二日、同年六月二十七日写松本清治」と墨書してあり、台紙にはE, Tawara Hiroshima, JAPAN. 広島市土手町 俵写真館」とあります。(藤井康栄著『松本清張の残像』文春新書)

この写真館も確かに広島市土手町(現、松川町・比治山町)にあり、現在でも江田島で営業されています。

2 両親の出会いの町(推考)

清張の前半生は自叙伝的作品といわれる『半生の記』(昭和41年10月 河出書房新社刊)に詳しく述べられています。

父、峯太郎は鳥取県生まれながら若くして郷里を出奔し、明治27年の日清戦争時には広島県の警察部長の家で書生となり、その後、広島衛戍病院(後の陸軍病院)の看護雑役夫としても働いていました。

母、タニは広島県賀茂郡志和村の出身で、村を出てから広島で紡績女工になったといわれています。広島はどこだったのでしょうか。

清張が幼かったころ、母親が夜寝る前に「さあさあ、いまからカベの町へ行こうな」(昭和51年7月1日～9日読売新聞夕刊連載)とよく言ったそうです。母親が生まれ育った志和村と可部の町は、今でこそ直接つながる公共交通機関はありませんが、可部の南に流れる三篠川を遡ったところにある狩留家という地域と山を挟んで表裏の位置にあります。狩留家では湯坂峠を渡って志和村から運ばれた米などの荷を川舟に乗せたという歴史もあり(『古路・古道調査報告』広島市教育委員会 1992年3月)、志和村と可部の町には往来があったことがわかります。この可部の町は山藪織りで栄えた町であり、母親が働いていた場所は可部の町である可能性もあります。

また別の候補地もあります。明治政府は殖産興業政策の一環として、明治11年イギリス製紡績機2,000錠2基を輸入して、工場を愛知、広島に建設します。広島では明治15年、安芸郡上瀬野

村奥畑(志和村とは歩いて約1時間程度)で操業を開始しますが、水車を動力に利用していたために水が不足すると正常に運転できませんでした。それで、明治21年にはこの設備を広島区(現広島市)河原町に移転し、蒸気機関を動力とした紡績工場として再出発するのです。志和と瀬野はつながり、この瀬野と河原町がつながり、何らかの縁で母親が河原町に働きに出たことも考えられます。

さらにもうひとつ。日清戦争後の明治29年には広島市蟹屋町(当時は蟹屋村)に中国紡績株式会社が設立され、明治31年より生産を開始します。この会社は明治35年に大阪合同紡績株式会社(後の東洋紡績)に吸収合併されて次第に発展していきます。明治41年の『広島県勸業年報』によると、この紡績工場には704人の従業員がいたとあり、大きな工場だったことがわかります。ここかもしれません。

いずれにせよ二人の接点があつたか確定はできませんが、いろいろな状況からみて広島で一緒になったと言っていると思います。

3 清張ゆかりの町(推考)

清張は『父系の指』(昭和30年 新潮)で自分は広島のK町で生まれたと聞かされたと書いています。普通、K町とは乳児のとき写真を撮った写真館のある広島市内の京橋ではないかと思われませんが、母親が住んでいたかもしれない前述の可部町の『K』とも考えられます。

また、清張の小説には車夫がよく出てきており、父親が車夫をしていたのではないかと推測する人がいます。そうならば、父親は広島駅(広島停車場)のまわりで働いていた可能性が大きくなり、母親が蟹屋町の紡績工場で働いていたとすれば二人の点が重なることとなります。この蟹屋町は広島駅東南に位置し、駅とは目と鼻の先なのです。そしてまさしく蟹屋町の頭文字が『K』。さらに清張が写真を撮った

小早川写真館、俵写真館が近くにあるとすれば・・・。

昭和51年3月、清張は一度だけ母親の郷里である現東広島市志和町を訪ねています。墓も生家も分からずじまいでしたが、清張はあぜ道に座り、しばらくの間、春の訪れを待つ山河を眺めていたそうです。その時、すでに作家として大成していた清張は何を思った

のでしょうか。今になって清張が広島と関わりがあるということに、どれほどの意味があるかわかりませんが、あの国民的作家・松本清張が広島と点と線でつながっていると思うだけでも胸が躍るのは私だけでしょうか。

(沼田 有史)



現在の志和町
当時、清張が座った場所からの眺望

企画展「広島の遺跡を掘る」2010.4/22～7/11

“〇〇遺跡の発掘調査始まる”

“△△遺跡で新たな発見！”

新聞などでこうした記事をよく目にします。この「遺跡」というものについて、例えば奈良や京都といった特別な地域にしか存在しないと思っていたり、また言葉の響きから何千年も昔の“原始人”のイメージしか浮かんでこないという方が多いのではないのでしょうか。しかし実際にはそうとばかりは言えないのです。そもそも「遺跡」というのは、人間の暮らしや営みの痕跡が地表や地下に残されているところを言います。例えば家を建てたり農作物を育てたり、あるいは土木工事などあらゆる痕跡がすべて「遺跡」といえるので、特定の地域にしかないというわけではありません。また、何年前より古いものを遺跡とするという基準はありませんので、極端な話をすると、数日前に残された土木工事の跡も遺跡の範

ちゅうに入るかもしれません。こうしてみると、わたしたちのまわりは、実は遺跡だらけなのです。そして、こうした遺跡を詳細に研究することで、人々の生活を復元しその歴史を再構成する学問が「考古学」です。

さて今回の展示では、発掘調査の行われた広島市内の遺跡のうち、各時代の特徴のよくわかるものをピックアップし、時代の古い順に紹介しました。古くは1万年くらい前の石器から、300年ほど前の生活道具類まで約200点の出土品を通して、広島の地に生きてきた人々の暮らしや社会状況などを垣間見る内容です。ご覧になった方からは、「普段よく通る紙屋町の地下に遺跡があったなんて知らなかった」「うちの裏山にも遺跡があるかも…」といった驚きの声や感想が聞かれました。こうした反応を聞くと、展示の意図が伝

わってうれしい反面、遺跡という文化遺産や考古学の成果について広く知ってもらおう努力がまだまだ足りないという反省の念にも駆られます。今後もこのテーマの展示を続けることで、大人だけでなく未来を担う子供たちにも、自分たちの郷土の歩みについて関心を持ってもらうきっかけになればと考えています。

(稲坂 恒宏)



小学校3・4年生で地域の古いものについて学習します
(『わたしたちの広島市3・4年生』より)

イベント「おばけの夏休み」2010.7/23～8/1、8/4～31

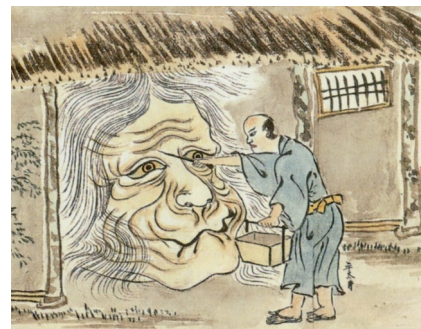
本展は、夏の風物詩である「おばけ屋敷」と「江戸時代の妖怪」展示の2コーナーで開催しました。「江戸時代の妖怪」コーナーでは、広島県三次市に伝わる妖怪物語『稲生物怪録』の絵巻を紹介しました。

時は江戸時代、寛延2年(1794)7月、備後国三次に住む16歳の実在の少年、稲生平太郎(元服後は稲生武太夫)のもとに一月にわたり、物怪(妖怪)たちが次から次へと現れ驚かすというお話です。この物語は、昔から全国的に知られ、文章のみのものもあれば、絵本、絵巻もあり、それぞれの内容も微妙に違っています。一般的には『稲生物怪録』と呼んでいますが、実はタイトルも『稲

生武太夫一代記』、『三次実録物語』、『稲亭物怪録』などさまざまです。

今回紹介する絵巻『稲亭物怪録』(広島県立歴史民俗資料館蔵)は、長文ストーリーに絵を添えたもので、表裏面に描かれており、総延長になると58メートルにも及びます。あまりに長くて一度に全てを見ることは不可能なため、そこに描かれた69枚の絵をパネルにしたものも展示し、ストーリーを追っていきました。この『稲亭物怪録』ラストは他の『稲生物怪録』と違い、平太郎が魔王から授かるお決まりの「木槌」が登場しませんが、一味違う結末も必見の絵巻でした。

(山縣 紀子)



戸口をふさぐ老婆の顔 『稲亭物怪録』
広島県立歴史民俗資料館提供



ひろしま郷土資料館だより



★ 伝統的な物づくりや、昔ながらの遊びを体験する教室。幼児対象のものから大人も参加できるもの、大人向けのものまで、多彩な事業を行いました。

★ 事前申し込みなしで参加できるイベント。「おばけの夏休み」との関連でおばけをテーマにしたからくりおもちゃなどを作り、毎日おおぜいの参加者にぎわいました。

★ 館外での講演や講座、工作教室での指導などの記録です。また、今年度も3施設合同ボランティアの皆さんには様々な事業で活躍していただきました。



フラワーフェスティバル

「かんたんからくりこいのぼり」



広島経済大学フィールドワーク
「宇品の歴史めぐり」

教室事業

4月24日(土) 古代の土器作り	8月14日(土) 戦後のパン焼き体験
4月29日(祝・木) 勾玉作り	15日(日)
6月5日(土) 藍でハンカチ染め	8月21日(土) 勾玉作り
6日(日)	22日(日)
6月18日(金) 大人の染色体験	8月28日(土) ところてん作り
7月3日(土) 七夕かざり作り	29日(日)
4日(日)	9月18日(土) 月見団子作り
7月17日(土) 折り染めのうちわ作り	19日(日)
7月18日(日) 漆喰ボール作り	9月23日(祝・木)
	紙芝居「ごんぎつね」とおはぎ作り

夏休みカンタン工作

8月10日(火) からくりゼミのミイラ	8月19日(木) 光る! プラ板キーホルダー
11日(水)	20日(金)
8月12日(木) からくり飛びだすおばけ	8月24日(火) くるくるキラリン棒
13日(金)	25日(水)
8月17日(火) びっくりびっくりカラフル魚	8月26日(木) フラフラおばけ
18日(水)	27日(金)

その他の事業・館外活動

4月24日(土) こころふれあい体験コーナー 「からくりおもちゃコイの滝のぼり」	6月26日(土) 博物館見学実習・広島文教女子大学 広島経済大学フィールドワーク「宇品の歴史めぐり」
4月25日(日) 博物館見学実習・広島修道大学 こころふれあい体験コーナー 「からくりおもちゃ ひっくりカエル」	7月2日(金) 博物館見学実習・安田女子大学
5月3日(月)・4日(火)・5日(水) フラワーフェスティバルに工作ブース 「かんたんからくりこいのぼり」	7月27日(火)～29日(木) アステールプラザ 「おばけの夏休み」にてインターンシップ実習
5月22日(土) 松本清張作品朗読会(広島音読の会)	広島市立工業高校
5月23日(日) 歴史系3施設合同ボランティア研修会で 「藍の絞り染めハンカチ」	8月1日(日)～8日(日)博物館実習A日程
5月29日(土) 広島城メモリアルデーで 「こいのたきのぼり工作」	8月4日(水) 宇品公民館 郷土歴史ふれあい教室 「ねん土をコネコネ! 古代土器作り」
6月5日(土) 似島臨界少年自然の家 第3回ニノマボク を育てる里人の集いでホテルかご作り	8月5日(木) 宇品公民館 郷土歴史ふれあい教室 「世界に一つ! 自分だけの藍染めハンカチ」
6月6日(日) 広島電鉄路面電車祭りで 「からくりおもちゃのぼる! 路面電車づくり」	8月6日(金) 被爆建物案内
6月10日(木) 博物館見学実習・県立広島大学	8月11日(水)～21日(土) インターンシップ実習 比治山大学
6月16日(水) 博物館見学実習・安田女子大学	8月17日(火)～24日(火)博物館実習B日程
	8月18日(水) 安芸区民文化センター 「折り染めうちわ作り」
	8月21日(土) 広島県立歴史民俗資料館 第3回ふどきの 丘体験教室「藍染に挑戦しよう」

9月4日(土)
博物館実習・広島文教女子大学

9月9日(木)
竹屋小学校で出張事業「昔の道具体験」

ナイトミュージアム 2010.8/7

8月7日(土)に開館時間を延長してナイトミュージアムを開催しました。当日は多くの来館者の方にいつもとは違う夜の郷土資料館を体験していただきました。

2階講堂では「ふしぎな科学の実験ショー」(江波山気象館共催)が行われ、光るふしぎな世界を体感しました。1階常設展示室では「ナイトミュージック」(安芸区民文化センター共催)が行われ、美しい弦楽四重奏の調べを聴きながら夏の夜のひとときを過

ごしました。また、館外においては「天体観望会」(こども文化科学館共催)が行われ、望遠鏡で夏の星座を観察しました。照明が落とされた館内は暗くてどこか不気味な雰囲気が感じられ、2階のおばけ屋敷からはいつもの以上の悲鳴や喚声が聞こえていました。

郷土資料館では今後も様々な形で皆様にご参加いただける催しを企画してまいります。

(牛黄著 豊)



ナイトミュージック

博物館実習・インターンシップ

本年度前半は実習希望が多く、インターンシップに高校生4人、大学生4人がそれぞれ参加しましたし、博物館館務実習も6人でA日程、B日程の2回に分けて行いました。

市立広島工業高校生のインターンシップは館外で行い、アステールプラザで「おばけの夏休み」工作指導に入ってもらいました。イベント独特の雰囲気の中、大変ながらも楽しい実習になったのではないかと思います。比治山大学生のインターンシップは10日間の長期にわたるものでしたが、受付業務やおばけ屋敷の監視・工作の指導・準備など、館が一番賑やかな時期に頑張ってもらいました。

インターンシップと館務実習B日程は時期が重なっていたこともあり、両方の学生がわきあいあいと日々の事業に携わってもらったのもよい思い出になったかと思えます。

館務実習はイベント会場の設営や被爆建物案内のガイド、教室事業の補助や実施、出張事業、襖の下張文書の取り扱いなど盛りだくさんな内容でしたが、7日間の日程はそれぞれあつという間に終了しました。

展示室も職員エリアも非常に賑やかな夏休みでした。実習生のみなさんにとって実りある夏だったと思います。

(前野 やよい)



襖の下張文書取扱の実習

平成22年度後半の企画展

企画展 「ごんぎつね」が語る昔の暮らし

【会期】9月7日(火)～平成23年3月6日(日)

童話「ごんぎつね」のストーリーを交えながら、作中に登場する昔の道具や情景を再現・展示して昔の人々の暮らしを紹介します。

広島市郷土資料館 開館25周年記念 企画展 広島競馬場

【会期】11月13日(土)～平成23年1月16日(日)

日本における競馬の歴史、広島競馬場の変遷、競馬に携わる人々、競馬で使用される道具などを紹介します。調教師や騎手を招いての競馬トークショーや競馬場体験バスツアーも開催します。

★ 平成22年度後半も新たな切り口の展示や楽しいイベントで皆さんをお迎えいたします。ご期待ください。



中国グラウンドでの競馬(昭和初期)
広島市市民局文化スポーツ部文化振興課提供



ひろしま郷土資料館だより

寄贈資料 (平成22年4月～9月受入分)



①昭和20年代に三原で開催された草競馬の優勝旗

③両手がふさがっている時に便利な、ペダルを踏み扉を開けるペダルオープナー付。昭和30年代後半



②昭和18年、配給の抽選で当選してもらった茶碗。1セット5客



資料内容	件数	寄贈者 (敬称略)
草競馬優勝旗①	2	清田勲人
写真「広島和裁組合生徒慰安会」	1	面野保枝
社団法人日本和裁士会会員之章	1	
配給茶碗②	5	山之上弘子
冷蔵庫③	1	重谷昌江
押し寿司の型	1	
便所の紙置き台	1	

ご寄贈いただいたみなさまありがとうございました。



天秤棒担ぎ体験を指導



昔の暮らしをテーマにした説明

ボランティア活動点描

当館では、平成18年度、文化財課・広島城とともに「歴史系3施設合同ボランティア」を立ち上げました。現在の登録者数は約90名、当館ではこれまで土日を中心に行っている教室事業でのサポートを中心に活動していただきましたが、さらに主体的に活動できる場を設けようと、今年度から学校団体の対応にチャレンジしていただいています。

郷土資料館には9月から11月にかけて毎日のように小学校団体が来館し、ほとんどの学校が展示案内や体験学習を希望されます。これまででは職員のみで対応していたのですが、ボランティアさんにメンバーに入っていただくこと

にしたものです。最初のうちは職員がサポートしていたのですが、すぐに1担当者としてお任せできるようになったばかりでなく、ご自分の体験や勉強されたことを積極的に盛り込むことで、説明内容にぐんと幅ができました。かえってこちらが勉強させていただいております。

発足以来4年がたち、まだまだ限られた分野でしか活動していただけておりませんが、これからも活動の場がどんどん広がり、充実したものとなるよう、環境作りに取り組んでいきたいと思っております。

(大室 謙二)

ひろしま郷土資料館だより 第80号

【編集・発行】

(財)広島市文化財団 広島市郷土資料館

〒734-0015

広島市南区宇品御幸二丁目6-20

TEL (082) 253-6771 / FAX (082) 253-6772

<http://www.hiroins-net.ne.jp/kyodo/>

【発行年月日】

平成22年(2010)11月11日



広島市郷土資料館

HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS